

病院の収益改善を実現する「診療報酬加算計算・管理システム」の試作開発

試作開発＋設備投資

ものづくり技術：革新的サービス

株式会社ヴィンテージ（北九州市）

本事業への経緯

全国の社会福祉協議会向けに運営支援システムを提供

WEBシステムの開発やWEBコンサルティング、ネットワークサーバ構築、福祉・法律業務に特化したWEBシステムなどを展開している。サイトの構築やメンテナンスで大手企業や行政関係に多くの実績を持つ一方で、社会福祉協議会向けシステムを開発し、全国に導入・販売している。

例えば、全国の社会福祉協議会で実施されている法人後見および市民後見の監督業務を一元管理する法人後見・市民後見業務支援システム「みると」は、手作業や重複作業を削減し、煩雑な業務負担を軽減する。日常生活自立支援事業業務システム「らいと」は、利用者情報や支援計画、預り品の管理のほか、活動記録を入力するだけで利用料や支援員の活動費を算出し帳票出力や集計を行えるため、大幅な業務効率化を図ることが出来る。相談管理システム「ゆめと」は、職員同士での情報共有はもちろんのこと、キーワード検索や条件検索で過去の相談や匿名相談などもすぐに検索ができるため、担当者が不在でもスムーズな運営が可能。このように、社会福祉協議会向けシステムは同社の大きな柱となっている。

事業の内容

負担になっている診療報酬点数計算業務を自動化するシステムを開発

福祉業界との関わりから医療関係者の意見や要望を聞く機会も多い。その中で、複数の医療機関から診療報酬加算の課題やシステム化に対する要望が出てきた。

日本の病院は高齢化に伴う入院・外来の増加などにより、7割が赤字だと言われている。病院の収入源は、患者の自己負担分と公的医療保険からの収入で構成されるが、公的医療保険からの収入は、病院が診療内容等に基づいて診療報酬明細書（レセプト）を作成して公的保険に請求する。診療報酬明細書は診療内容に基づく診療報酬点数により計算されるが、その基となる

のが診療報酬点数表である。

診療報酬は「診療報酬」と「加算部分」で算出されるが、加算部分の計算は非常に複雑でもある。例えば、時間外診療や乳幼児診療の場合など診療内容単体で計算出来るものの他、一定以上のリハビリ利用者がいると加算されるもの、建築基準を満たした食堂を作れば加算されるもの、特定の資格者（管理栄養士など）が一定数いれば加算されるもの、病院が過疎地などであれば加算されるものなど多岐にわたる。診療内容から患者集計数、病院の立地・施設・職員など、様々な要素や要素の掛け合わせから構成されており、正確に条件を満たす加算要素を見つけるのは難しい。特に、ベッド数が多い病院になると加算要素が多くなるため、担当者への負担はかなり大きくなる。

病院がどの要素で加算を申請できるか調べる際、分厚い診療報酬点数表を見ながら調べているのが現状である。また、2年に1度に政策方針により改訂が行われる。それらの情報も踏まえて、常に最新の情報を得て、備えておく必要がある。

加算部分の計算が複雑で難しいことから、加算条件を満たしているにも関わらず、それに気付かず申請漏れが起きることもある。申請しなければ、加算分を受け取れないため、結果として経営を圧迫する要因になりかねない。また、改訂によって取消すべき加算分を間違って申請していると、返金を求められることもある。

こうした医療機関が抱える診療報酬に関する悩みを、これまで培ってきたノウハウで解決することを目指した。

事業の成果

現場の声を問題解決に反映し、プロトタイプを開発

今回の申請では、「診療報酬加算計算・管理システム」の試作（プロトタイプ）をテーマに開発を行なった。診療報酬点数の内容、計算方法、加算条件などについて、システム上の計算要件を調査・整理し、システム上の機能として実装した。画面の設計図を自社開発者が作成し、画面をシステム上作成する作業は外注先に

発注して行なった。

また、試作づくりを進めるなか、病院の現場から画面や操作性等の感想・助言を受けて、デザインや機能の改善等に役立てた。

そうして、診療報酬加算計算の条件を調査・整理し、ソフトウェア機能として実装したプロトタイプを完成させた。

プロトタイプが完成したことによりユーザー（病院）ヒアリングや調査などが可能となり、今後の本開発がより精度高行なうことが可能になった。

プロトタイプの完成は、病院が手間をかけずに診療報酬加算分を申請することができ、経営の効率化・収益改善を助ける。病院は、経営資源を医療技術や患者サービスの向上により投下できるようになることから、よりよい医療サービスの提供が加速するものと期待できる。

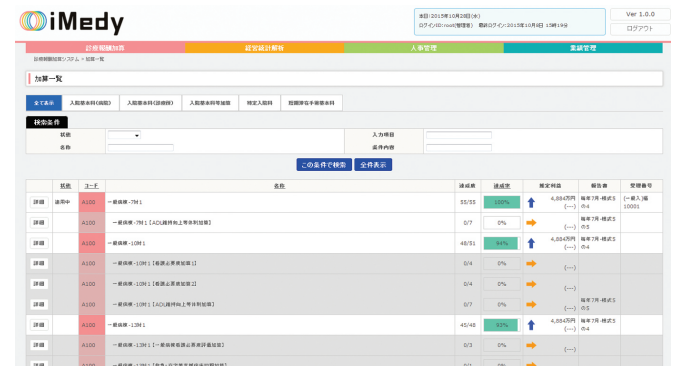
今後の課題・展望

中規模以上の病院を対象に販売

「診療報酬加算計算・管理システム」は、加算要素が多い中規模以上の病院が対象となる。同社では、地域の中核的病院をメインの対象と位置付けている。販売価格など具体的な金額については、対象となる医療機関の声を聞くなどマーケティングを進めるなかで決定していく考えだ。

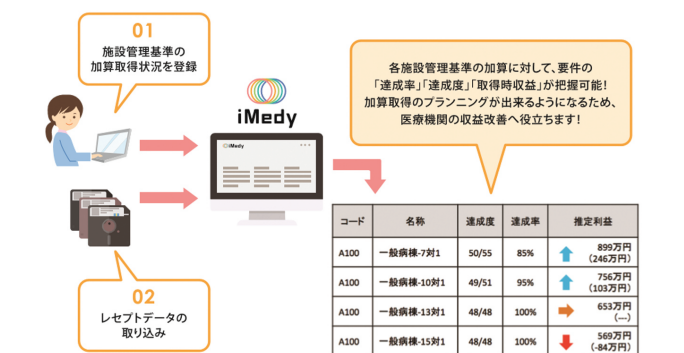
販売については、販売代理店やパートナーなどの販売のための仕組みを構築していく計画である。

今回のプロトタイプ完成で、同社の強みに医療分野が加わることになる。そして、医療・福祉市場に対して総合的に商品を提供するシステム開発メーカーとしての地位を築くことが出来る可能性も見えてきた。



項目	コード	名称	達成度	達成率	達成利益	達成率	達成利益
診療	A100	一般病棟・7対1	50/55	85%	↑	899万円 (246万円)	
診療	A100	一般病棟・10対1	49/51	95%	↑	796万円 (180万円)	
診療	A100	一般病棟・13対1	48/48	100%	→	653万円 (-)	
診療	A100	一般病棟・15対1	48/48	100%	↓	569万円 (-84万円)	

社会医療法人 製鉄記念八幡病院



システムイメージ

今回は、サーバ版の開発を行ったが、今後はこれをベースにクラウド版の開発を手掛けたい。現在、実際に社会医療法人製鉄記念八幡病院の事務部門にプロトタイプを導入、操作してもらい、頂いた意見やデータを元に完成版を作成している。

まずは、モデルケースで実証しながら、より完成度を高めていくことで、医療機関の業務効率化と収益構造の改善に貢献していきたい。



郷田 和正 社長

企業概要

会社名	株式会社ヴィンテージ	設立	平成17年5月
住所	北九州市小倉北区浅野3-8-1 AIMビル7F	事業内容	WEBコンサルティング、WEBマーケティングWEBシステム開発・運用、ホームページ構築など
代表者	郷田 和正		
連絡先	TEL093-513-7255、FAX093-513-7266	従業員数	16人
資本金	1300万円	ホームページ	http://www.vintage.ne.jp/